

恒例の「地域の皆様への感謝の会」を開催しました

平成23年11月23日(水・祝)、恒例の「地域の皆様への感謝の会」を大塚山処分場にて開催しました。今回で16回目となります。当日はお天気にも恵まれ、200名近くの地元の方々にご来場頂きました。降ろし場や水処理施設の場内見学、現在の状況等をご説明し懇談会を行いました。

【水処理施設見学の様子】



【埋立地見学・廃棄物サンプル展示の様子】



【弊社会長挨拶の様子】



見学会やインターネットで管理状況を公開

専門家やインナーネットで徹底管理で万全期す

大平興産「感謝の会&施設公開」

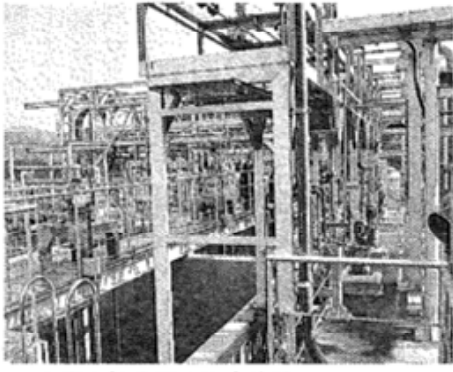
産業廃棄物処理業：大平興産(株)（山上代表取締役）
本社／東京都千代田区

では十一月二十三日、富津市関の同社大塚山処分場（管理型最終処分場）で「地元の皆様への感謝の会」を開催。

謝の会を開催。地域住民らに埋め立て現場や浄水施設を公開した。



見学者に埋め立てられる廃棄物を公開



▲大塚山処分場の浄水施設

同社は昭和四十六年に創立、同六十年大塚山処分場（第一処分場）で操業、平成四年に埋め立て終了。同年第二処分場を、同二十年十月には第三処分場第一期の操業を開始した。また、民間の廃棄物処理業では国内初となるISO14001の認証を取得（平成9年）。

この環境マネジメントシステムによる施設や構造物の保守・点検並びに稼働状況の監視等を日常的に行い、周辺地域への環境負荷の低減に努めるとともに、地下水汚染対策に万全を期している。東日本大震災後は、処分場の全てを点検、破損故障も無く順調に稼働している。

同処分場の平成二十二年埋め立て総数量は約八万トン（内訳／燃え殻・ばいじん・鉱さい 51%、汚泥 15%、一般廃 8%、廃プラスチック類 8%、ガラスくず等 18%、地域別では九十%が県内で、排出

事業所総数は約百四十。今年三月に汚染土壌処理業許可を取得し、汚染土壌処理の施設から排出される改良土の受け入れを開始。受け入れ基準は廃棄物とほぼ同じだが、ほとんど汚染されていない通常の土砂に近いものだけに限定している。

また、今年四月の廃棄物処理法改正を受け、同処分場の管理状況をインターネットを通じて公開。大震災発生後は、「放射性物質に係る廃棄物に関する自主管理規定」を定め、国が示した基準値を守り、県と確認しながら公共の下水処理場等から排出される廃棄物（基準値を超える数値は不検出）を受け入れていたが、その廃棄物を公開するなど、地域住民らの不安を解消するために努力している。

感謝の会で山上会長は、受け入れに至る経緯を説明した上で「国では一ミリシベルト以内であれば問題ないと示しているが、私どもは〇五ミリシベルトという基準を定め、専門家が厳重に管理しています。搬入を反対される方のお気持ちは理解できますが、処分場は環境を保全するためのものです。化学的知識をも

から排出される廃棄物（基準値を超える数値は不検出）を受け入れていたが、その廃棄物を公開するなど、地域住民らの不安を解消するために努力している。

感謝の会で山上会長は、受け入れに至る経緯を説明した上で「国では一ミリシベルト以内であれば問題ないと示しているが、私どもは〇五ミリシベルトという基準を定め、専門家が厳重に管理しています。搬入を反対される方のお気持ちは理解できますが、処分場は環境を保全するためのものです。化学的知識をも

って管理していただきますので、安心して頂きたい」と挨拶。来賓の浜田靖一代議士は「東北地方を復興させるためには全国各地に処理をお願いするしかない。大平興産は徹底した管理の中で、地域に被害が出ない様処理している。地域の皆様へ感謝しています」と、吉本充県議と高梨良勝市議も同社の企業姿勢を語るとともに、地域住民の理解に対し、感謝の意を述べた。また、区長代表・吉田行夫高溝区長は「問題ないということでは安心、徹底した管理で地域を守ってほしい」と挨拶した。